

(五) 都邑の城郭を繚の創造せし傳説は信すべからず

(六) 密集部落を意味する邑、或の二字の原始的意義

は等しくして、共に城郭ありし痕迹を認め難い。

但し都、國の二字は意義等しくして共に城郭ありしことを認め得らるゝ。

(七) 殷朝の首都としては相以前のものには位置の永

續性弱く又城郭の存在を認め難い。

(八) 帝盤庚の殷奠都は殷朝としては劃代的のものに

して首都としての位置の永續性も鞏固とせられ設備も亦相當に施されたるならむ。

(九) 支那都邑の城郭築造は帝盤庚の殷都營建に濫觴するものにはあらざるか。

(十) 城郭ある邑をも邑と呼稱する習慣漸次に起り居れば、城郭ありし周の豊邑を邑と稱せるも何等の支障を認めぬ。

—大正十四年三月二日四更稿了—

## 國境の研究 (上)

文學士 下 田 禮 佐

### 一、國境の起源

國家は、普通は（世界大戰後敵國を分裂せしむる手段として濫造されたものは例外であるが）、一

小部落、一小民族がある土地を中核として起り、後にその盛なるに隨つて、接續民族、近隣部落が、その周圍に結晶附著すること由て、擴大され盛になり、遂に完全な國家を形成するものである。

随つて國名もその發祥地又は部落名に因む場合が多いことは、オーストリア、プロシヤ、支那の宋までの國號、又は日本の別名ヤマト等に由ても知らるゝ處である、かゝる原始状態に於ては、その土地も單に部落民共同の狩獵場又は放牧地として使用するに過ぎないから、土地に對する要求も切實でない。随つて土地を成るべく廣く要求するが。林空地又は水邊に至ればそれを外部に對する境界としてそこに停止する。ラツツェルが、<sup>(1)</sup>境界は移動の產物であつて、一定した境界は移動の停止した爲であるといつて居るが、アフリカの未開人の酋長國、蒙古、中央アジヤの遊牧民族の王公國などには一部落又は一國と、他の部落國家との間に、時として數百キロメートルの無人地又は人口稀薄地のあることは、蒙古游牧記、<sup>(2)</sup>ブルジェワルススキー、<sup>(3)</sup>バート・スタンレー等諸家の探檢報告で明かである、かゝる廣大な境界は、寧ろ「境界地帯」

といふべきものであつて、その多くは荒廢地であつて、その兩側の部落民が稀に共同の狩獵地、牧場を利用するに過ぎない。セムブルはかゝる境界を、「境界荒地」(Border of Waste)といつて居る。<sup>(4)</sup>時としては故意に境界荒地を作ることがある。<sup>(5)</sup>嘗て支那と朝鮮とは、鴨綠江、豆滿江にそつて、兩側約五十キロメートルの「間曠地」をおいて、民族混同、國境紛争を豫防したことがあつた。一六八八年、露支國境を定むるとき、喀克塔町を二分し、ロシヤ商館所在地をロシヤに、支那人蒙古人街區を支那に屬せしめたが、その間に中立地をおいて、兩國人會商の場所とした。

境界荒地に類するもので、文明國間の境界に、「共同境界區域」(Common Border Districts)といふのがある。新開地で人口稀薄、地價の低廉な所では、境界劃定について兩國の希望が一致しない場合は、暫く争議區域を兩國の共有地とする。か

る例は、幕末から明治八年までの樺太、米加間のオレゴン州、南米ブラジルと佛領ギアナとの境界に可成り長く存して居た。

人口稠密で地價の高い文明國にも、境界紛議を豫防する爲に、境界地帯を置くことがある。「中立地」はそれである。ジブラルタルとイスパニヤ本國との境界には幅一キロメートルの低い砂地があつて、中立地となつてゐる。ドイツ、ベルギー

の間にはヴェルサイユ條約まで、モレーネー (Moraine) 及び中立地所謂 No Man's Land があつた。支那の外國租借地、關東州、威海衛、廣州灣には今もその背域に中立地がある。更に所謂緩衝國 (Buffer State) の如きも、例へば、露英國のアフガニスタン、佛英間のシャムの如き、境界地帯の一種と見做すべきである。

境界線はひかれても、境界地方が人口稀少な荒地であるときは、國境にそつて带状の無稅地帯

(Free Zone) を作つて、その地域を關稅制度上國境外におき、關稅上の國境は眞の境界より遙に内地におくことがある。米墨國境には、メキシコ灣から太平洋まで、メキシコ領の方に幅十二哩の Zona Libre 即ち無稅區域がある。<sup>(7)</sup> 蒙古、西藏、新疆省は、全然無稅區域であつて、關稅上支那の國境は、張家口や蘭州にある。かゝる無稅地帯もまた境界地帯の一種である。

かくの如く國境發達の第一期は、線でなくて帶である。その荒地、空地、共有地、中立地たるを論せず、相互の接觸を防止する爲に帶としておくのであるが、人口が稠密となり、地價が高くなれば、強い方の民族は、弱い方の民族を犠牲として、國境地帯を侵略し、こゝに境界線が出来る。

## 二 地文的境界

(Physical Boundaries)

國境は民族移動の停止線であるから、己に國境

地帯を分割して境界線を定むることになれば、第一に、民族移動の障害物たる地文的境界を選ぶのが當然である。即ち國境發達の第二期は地文的境界によるものである。

この故に地文的境界として必要な條件は、(一)人類移動に對する障害性の甚だしきこと、(二)永續不變性を有すること、(三)境界たるべき地物は人類の住所に適せざること、(四)一目瞭然たることにある。近年まで交通機關の發達しない間は各國とも成るべく右の條件に適した境界の選定に努力したのである。今もヒマラヤ、アルプス、ピレニースの如き國境として可成りの重要性を持て居る。

若しそれが不十分な場合は、支那に於ける萬里の長城、ローマのリーメスの様に、人爲を以て補ふ場合がある。又ロシアの如く地文的境界のない場合は、その境界は進展的(March)であつて、ヒンズー・クツシユ、天山、アルタイ、黒龍江、太平

洋等の地文的境界に到達するまで進むものである。即ち最近までロシアには國境がなかつたので、その威力の及ぶところ即ち國境であつたのである。しかして現今の境域に擴がつて、地文的境界を得て始めて境界線が確定した譯である。支那は、支那本部、滿洲、新疆、蒙古、西藏等夫々地文的境界線を有するまどまつた區域であつて、支那の國力萎縮したときは、支那本部に窺居してゐるが、國運隆盛のときは、その地文的國境をこえて夷狄の住地へ侵入し、之を征服して、國境地方の擾亂を未然に防止する、隨て支那は四千年來境界が一定しない、支那人の勢力の及ぶところ即ち國境で、伸縮定りないのである。

(a) 地文的國境にも色々ある。海は生産の不能な所、人類の住所に適しない處であつて、隨て海岸線は人類住所の限界であるから國境として最も適當な處である。世界大戰前の歐洲の各國は、海の

境が、陸接國境の二倍八分一であつた。但し海國民に對しては、海は寧ろ障害よりも交通路となるものであるから、海をこえて國境を擴張することがある。中世ツェニス<sup>(1)</sup>はガルマチアの海岸や希臘の一部を領し、デンマークはレヴォールからノルエーまでのバルチック沿岸各地を領し、スエデンがドイツのボンメルンを有し、イギリスが現にフランスの一部たるチャンネル諸島を有し、日本が大陸に領土を擴張したなごその例は少くない。

但しモンテネグロ、ロシアニヤの様な陸國民は折角海に出ても海陸を有することの出来ない場合がある。ロシアも亦アラスカを維持することが出来なかつた。

(b) 山脈<sup>(2)</sup>は海に次で人類移動の障害線となるものであるから、國境として適當で、又境界として永持ちすることは、アルプス、ピレニース、スカンデナビヤアルプス(キョレン)、カーバシヤ、トラ

ンシルヴニヤアルプス、チナリツクアルプス等の例でよく分る。しかし山脈は劣敗民族、遺棄民族の「隠れ家」として選ばれることが多いので、その場合には山脈の兩側に同一民族が住み、山中の要害に據て彼等の最後の安息所たる小國を建て、ることがある。ヒマラヤ、印度支那山系の如き世界無比の高大な山脈でも、その兩側に西藏族が居る、ヒマラヤ山中には彼等の建てたブータンといふ酋長國及びヒンヅ族の一派グルカ人のネパール國がある。歐州にはスイス、アンドラ、リヒテンスタイン、サンマリノ、アルバニヤ、近頃まではモンテネグロなごいふ國もあつた。之等山間の民族は概ね平原の民族と著しく言語習俗を異にすること、ピレニース山中のバスクの如き例がある、且つ頑強、慍悍、山間の困難な生活に堪へる。武器の進歩と共に山間民族の最後の根據地も漸く縮まつてきた。それと共に山脈の國境としての價值

も減少するを負れない。

(c) 沼澤は境界として適當なものであるが、それが長く連續して實際國境となつてゐるのは、<sup>(13)</sup>オランダの東境の場合だけである。沼澤も排水されて漸次道路鐵道が開かれるから、その價值を減する傾がある。

(d) 河が境界となつてゐる場合は、朝鮮と滿洲、<sup>14</sup>滿洲とシベリヤ、米國とメキシコ、西班牙と葡萄牙の北部などの著しい例の外、南米、アフリカの植民地の如き未開地方にその例が多い。蓋し今日の戰爭に於ては、大河ならば兎も角、河流の防禦線としての價值は大に減少したから、文明國間に於ては河流を國境とすることは比較的少いからである。ダニューブの大河とその大支流セーヴ河とを帶び、バルカンの鏈とまで唱はれたベルグラードですら、獨將マッケンゼンは敵前渡河を斷行して之を占領したほどである。歐洲で河が國境とな

つてゐるのは他に自然的障害物のない、しかして比較的大河の多い東歐地方である。なほ東歐の河は、平原を流れる關係から兩岸に沼澤がある爲に境界としての價值を増大する。即ちダニューブ、セーヴ(今は國境でない)、ドニエストルなどはその例である。中歐では、ライン河の上流及び中流が國境として選ばれる。

(e) 森林は未開時代には境界として適當なものであつて、アフリカ、南米等にはその例があるが、歐洲には、今迄の獨佛の國境ヴォージユ、白佛間のアルダグス、カーバシヤ等の如く、山地で森林に蔽はれた場合の外境界となつてゐる例はない。

(f) 氣候は<sup>(15)</sup>民族の相違には壓倒的影響があるが、元來氣候の相違は、ヒマラヤ、アルプスの如き大山脈の兩側等の場合を除けば、漸移的のものであるから、國境には直接の影響はない様である。但し氣候は民族の性格職業の上に影響を及ぼし、

隨て言語の上に作用し、即ち言語の相違を惹起し、由て以て境界線を作ることになる。アルプスを境として南北に分居するイタリー人と、ドイツ人とを見ると、一方は母音多く、一方は子音が多い、之はその氣候の快和と、酷烈とによるものであるといはれてゐる。ロシヤ語に子音の多いのもその氣候のきびしい爲である。アドリア海岸のダルマチアが最近まで常にそのヒンターランドと政治的所屬を異にしてゐるのは、その氣候が一方は溫和、一方は寒冷酷烈な爲であらう。

尙ほ著しいのはポルトガルとスペインの境である。兩國の境には、河、山脈などによる所もあるが、國境として特に著しい地物はない、境界線として適當な地物は寧ろその外に半島内に澤山ある。然し言語が境界をなして居るともいへない、勿論國境にそうて兩國民互に言語を異にするが、スペインに行はるゝ四種の言語の中、ガリシヤの

言語はポルトガル語の方言と見做すべきものである。然らば、元來同一のラテン語から、何故にスペイン語とポルトガル語と分化し、由て以て兩國に分れることになつたか。今氣候圖を見ると兩國の國境は凡そ大西洋の濕氣を含んだ南西風の到達する限界と一致してゐる。即ちポルトガルは氣候濕潤、溫暖、快和で、豐沃な平地が多いが、スペインは之と著しい對照をなして乾燥して酷烈な氣候を有する高原國である。但スペインの西北部のガリシヤ州だけは地勢上ポルトガルが北方へ延長した様な所で、山は多いが氣候はポルトガルと同じく海洋性である。しかしてこのポルトガルの延長ともいふべき所だけはその言語がポルトガル語の方言を用ひてゐる。しかし第十二世紀以來嘗てポルトガルと合同したことがない、之を以て見れば、西葡兩言語の區別の生じた原因は氣候にあることは疑ない。溫暖な國ポルトガルの語は、母音

は大部分不明瞭であつたり、鼻音となつたりする、最後の子音は時々發音しない、強いrの音がなから、之に反して大陸的氣候に住むスウェーデン人の語は、發音が明瞭で詳密で、rの音もあれば、アラビヤ語から出たrの音や、喉音のjがある。我が國でも東北の音と鹿兒島の音とを較べると確かに氣候の影響がある様である。

註1. Ratzel; Politische Geographie, Berlin, 1925. p. 386. 註  
2. Pzhewalsky; Reise durch Kuku-Noor und das Nördliche

Tibet bis zum Oberlauf des Jangsekang. Petermanns Mittheilungen 1874. 註3. Sample; Influence of Geographic Environment New York, 1911. p. 216. 註4. Sample; ibid. p. 217. 註5. 丁若鏞 大寧疆域考 註6. Sample; ibid. p. 219. 註7. 高柳松一郎 支那疆域制度論 京都 大正九年 註8. Wiegner; Lehrbuch der Geographie, Leipzig, 1908. p. 745. 註9. Ratzel; ibid. p. 425. 註10. Do.; Do. p. 408. 註11. Gil Füllan; European Political Boundaries, Political Science Quarterly, Sept. 1924, p. 462. 註12. Ratzel; ibid.; p. 415. Sample; ibid. p. 595-600. 註13. Gil Füllan; ibid. p. 433. 註14. Ratzel; ibid. pp. 412-15. 註15. Gil Füllan; ibid. pp. 464-66.

## 明治初年の地方官會議 (下)

文學士 藤井甚太郎

### 九 第三回地方官會議

第三回地方官會議は、明治十三年二月五日より

同二十八日に互つて、東京寶田町二番地華族部長局なる議事堂に於て開催せられた。而して此が最後の會議であつて、十四年以後は又他の形式で催